

令和6年度小田原市防災講演会Q&A
～火山噴火への備えについて～

Q 火山灰が1cm積もった場合でも様々な影響がでるとのことだが、在宅避難すべきかそれとも早期避難が必要か。

A 電力会社の復旧体制の強化が進んでいる。火山灰に係る避難行動としては、在宅避難が有効と考える。

Q 火山灰の大きさは2mm程度との話だが、宝永噴火では軽石や岩などが飛んできた歴史があり、灰ではなく石が飛んでくる認識を持った方が良いと思うがどうか。

A お見込のとおり。実際に4cm程度の噴石の確認もしており、周知が必要と考える。小田原に飛んでくる噴石は、軽石程度であるため、ヘルメットで対処できると考える。

Q 火山灰は処理問題がある。埋め立て処理など小田原市の計画があるか。

A 火山灰処理の方法に関する検討はあるが、場所の選定等はこれから。市レベルでは仮置場の選定程度になり、被害が広範囲になることが想定されることから最終的には国レベルでの協議が必要と考えている。

Q 火山灰が1センチ程度積もると生活に影響がでて、在宅避難が安全との話があったが、除灰対応で乗り切れるものなのか。

A 在宅避難は短期的な避難の話、長期的な避難としてはケースバイケース。家の耐震性や細かいところでいうと世帯の経済的状況等、総合的な判断が必要である。

Q 火山噴火に加え、地震の頻発も想定されるが、そのあたりの想定はどうか。

A 地震の頻発は心身への負担がある。避難行動の例として自治体レベルでの集団避難や集団疎開の実績がある。またイタリアでも集団疎開の例があるなど、実績を参考にシミュレーションしておくことは必要と考える。

Q ぜんそく持ちで、火山灰の影響が心配。火山灰の除灰に係る市の対策はあるか。

A 例えば、鹿児島県ではロードスウィーパーを整備している。小田原市をはじめ、多くの自治体が事前整備していないと思うが、噴火時には国レベルでの対応が想定される。

Q 一般人による火山灰の清掃方法はどのような方法が想定されるか。

A ブロワーやほうきでも可能である。鹿児島県の例だが克灰袋というものを配備し、降灰指定置場などを設定している。